

ワクチン普及がもたらすブリ・カンパチ主要感染症の変遷

安全食品部 主任研究員 柳 宗悦

◆**目的** 県内の養殖場でワクチンを投与したブリ・カンパチの尾数の推移と魚病検査件数の推移から、ワクチンの普及状況とその効果について調べた。

◆方法

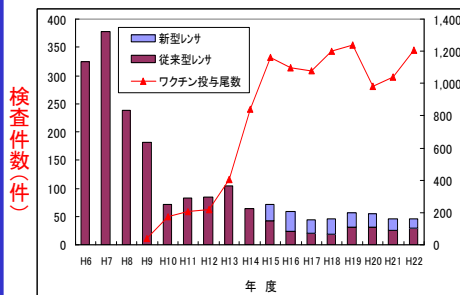
当センターで実施した魚病検査結果と県内のワクチン投与尾数のデータを集計し、ワクチン効果を調べた。

- ➡ (対象疾病) レンサ球菌症 (新型含む)
ビブリオ病, イリドウイルス感染症
- ➡ (集計期間) H6~H22データ

◆結果

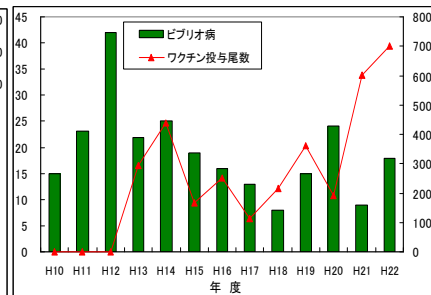
レンサ球菌症

ワクチンの普及に伴い、検査件数は急激に減少。



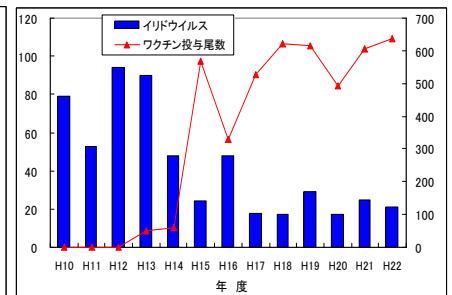
ビブリオ病

普及後約6年間は、投与尾数の増加に伴い、検査件数は急激に減少。



イリドウイルス感染症

普及後約3年間は、投与尾数の増加に伴い、検査件数は急激に減少。



ワクチン投与尾数 (万尾)

◆関連事項

1) 主要感染症について

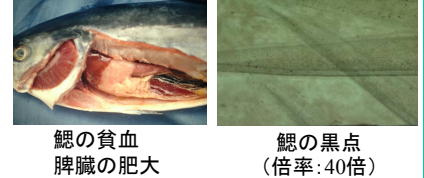
○レンサ球菌症 (新型含む)



○ビブリオ病



○イリドウイルス感染症

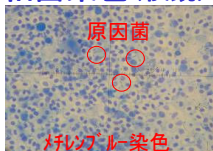


2) 診断方法

①外部・内部所見

肉眼による症状の観察・記録。

②細菌染色 (検鏡)

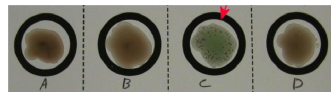


③抗血清凝集反応



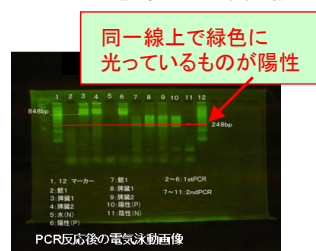
④PASTOREX試験

新型レンサの確定診断



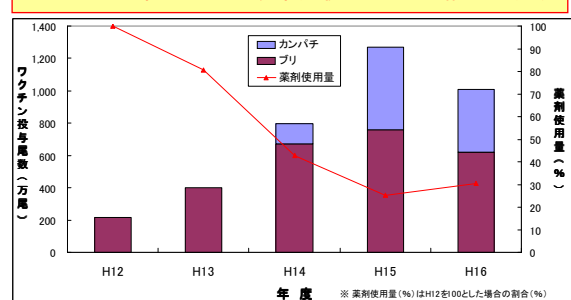
⑤PCR試験

ウイルス感染症の確定診断



3) ワクチン投与尾数と薬剤使用量の推移

ワクチンの普及に伴い、薬剤使用量は大幅に減少。



4) ワクチンとは

インフルエンザワクチンのように、体内に予め免疫を作り、感染症の予防をする製剤。

◆今後について

- ①ワクチンの接種技術の向上 (接種針の適正交換, 針の深度, 魚の健康状態の把握) により, 更なるワクチン効果が期待できる。
- ②新種ワクチンの開発・普及 (混合ワクチン) が望まれている。